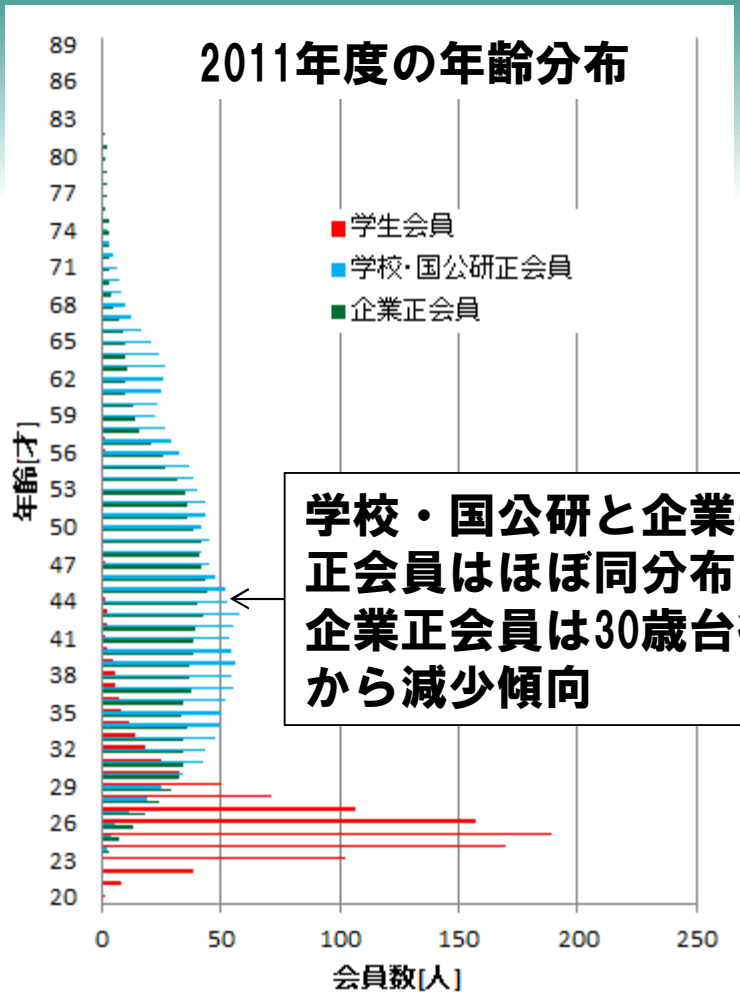
2015.9.4 日本ロボット学会学術講演会　オープンフォーラム

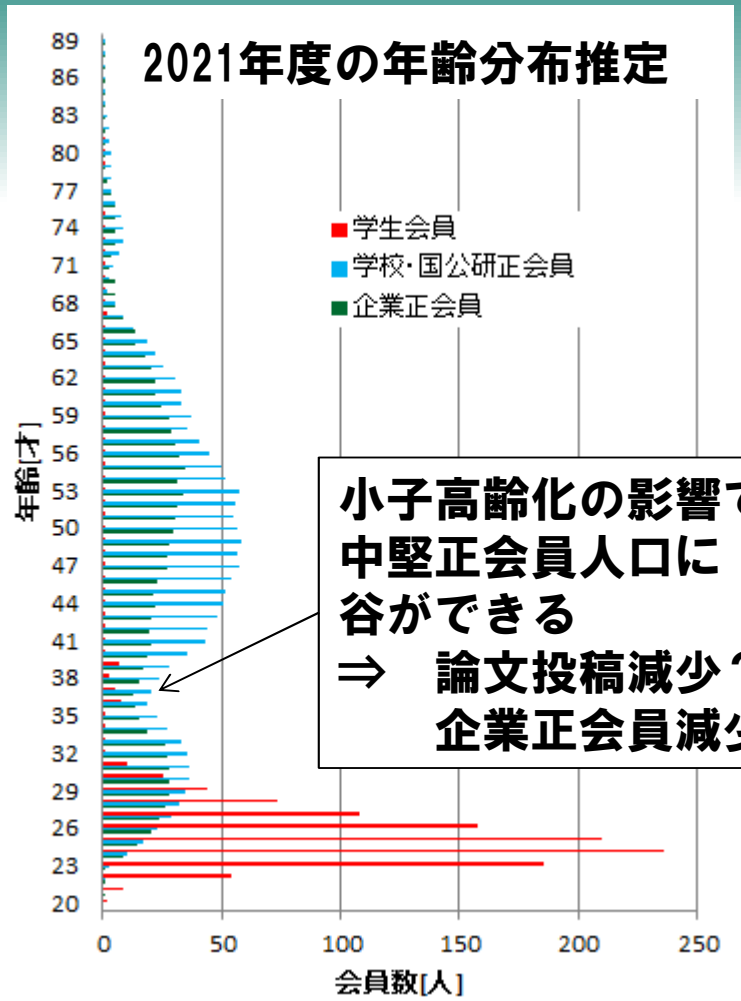
読んでおもしろい学会誌・論文誌
～学会誌読者からの提案と通る論文の書き方～

会長挨拶：高西淳夫

年齢別会員数



学校・国公研と企業の
正会員はほぼ同分布
企業正会員は30歳台後半
から減少傾向

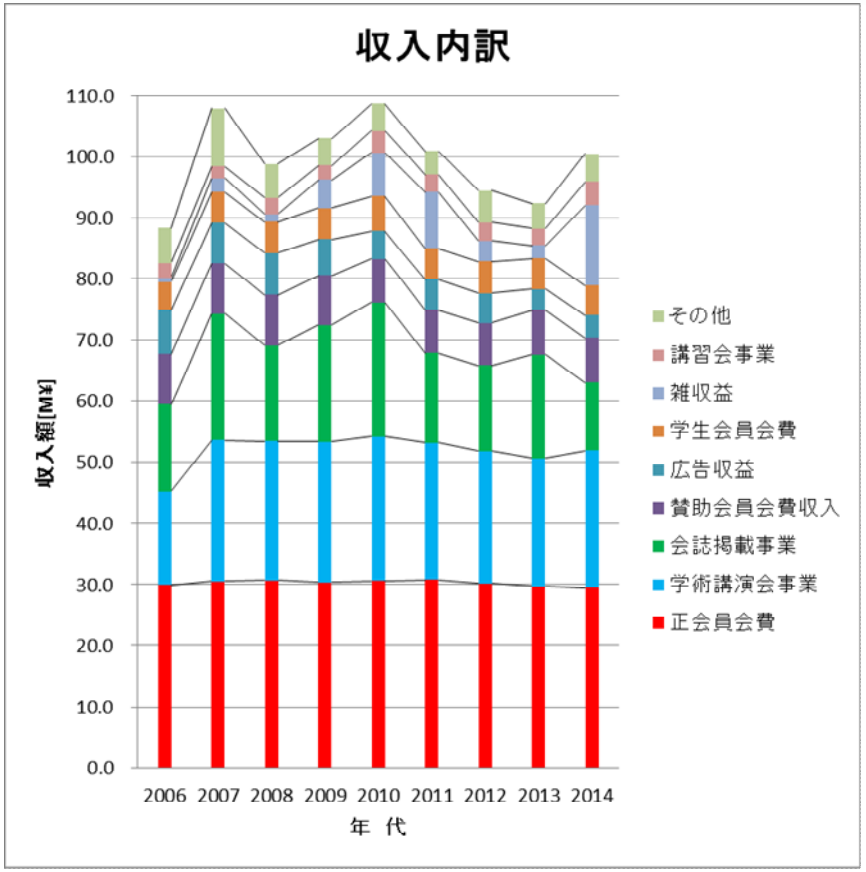


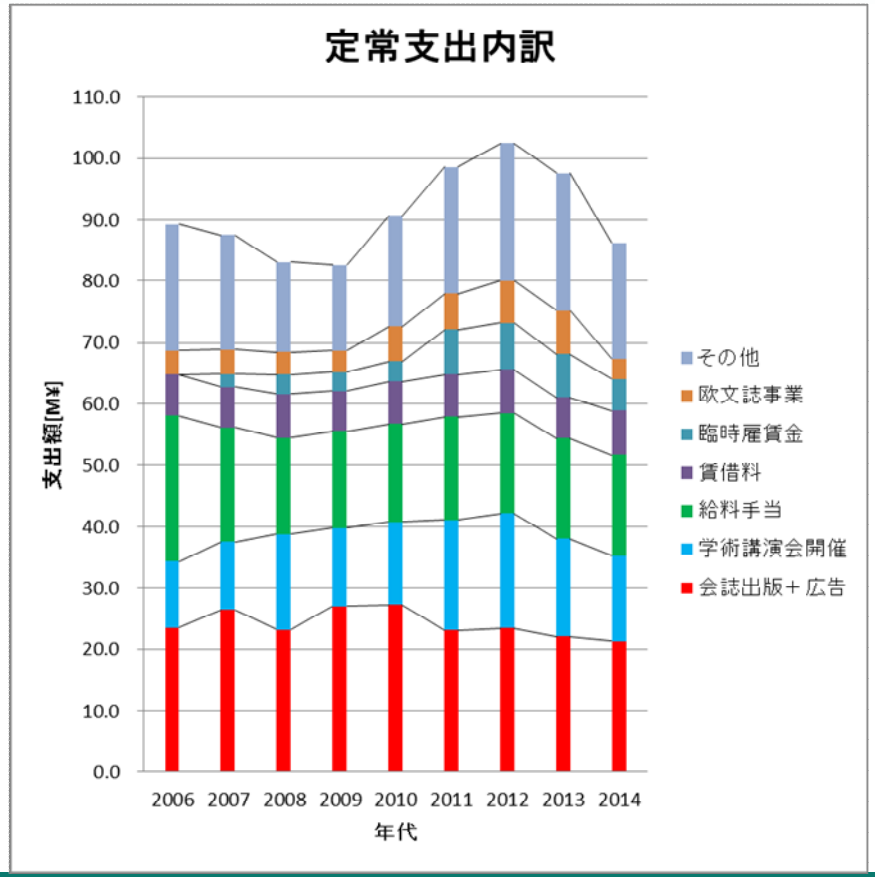
小子高齢化の影響で
中堅正会員人口に
谷ができる
⇒　論文投稿減少？
　　企業正会員減少？

Copyright © The Robotics Society of Japan, All Rights Reserved

財務状況（2）

- 主収入源は正会員費，学術講演会事業，会誌掲載事業の３項目であり，2010年から正会員会費及び会誌掲載事業収入の減少傾向が続く
- 支出の主因は会誌出版～欧文誌事業までの６項目であり、大口の学術講演会開催支出と臨時雇用賃金の変動に影響を受ける



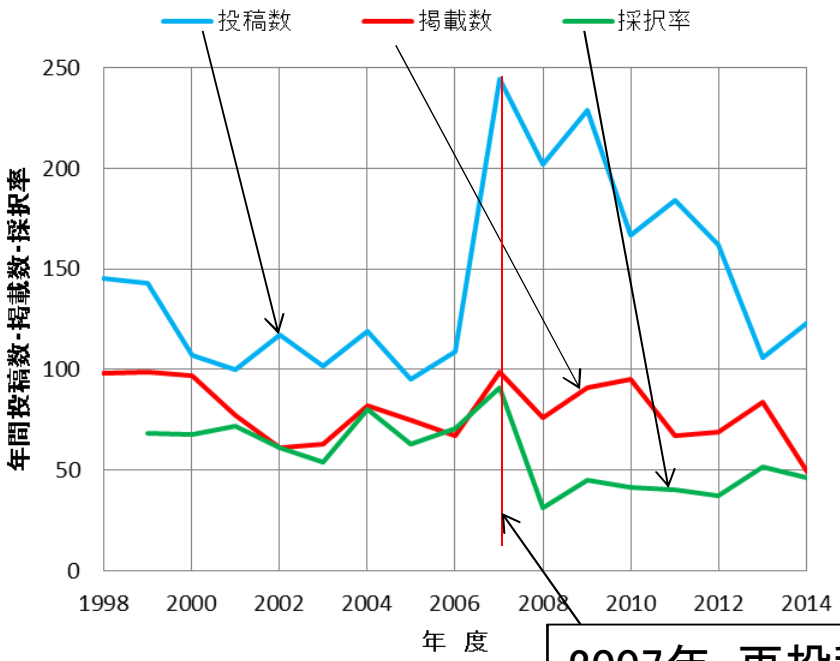


Copyright © The Robotics Society of Japan, All Rights Reserved

和文誌（2）

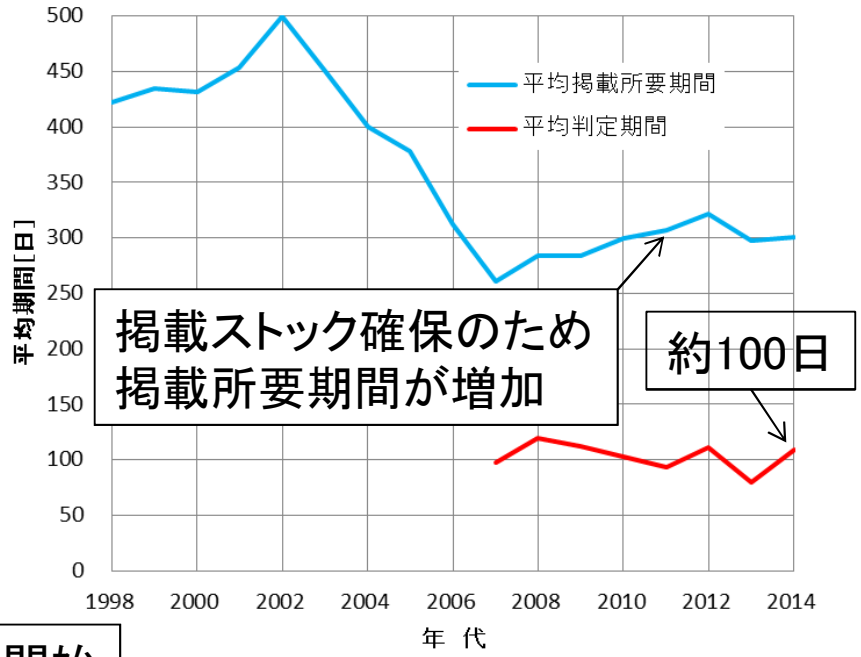
- 2007年以来論文投稿数・掲載数が減少傾向　⇒　掲載料収入減少
- 採択率は現在50％で若干緩和傾向
- 査読体制を，要素，システム設計・構築，人材育成・社会，実証実験の４つの専門体制とし広い分野の論文投稿を促進（2014.3より）
- 論文掲載所要期間は現在約300日，査読判定期間は現在約100日に低減。2014.3.17より新査読システムを導入し査読期間さらに短縮。

論文投稿･掲載状況



2007年：再投稿推奨開始

論文掲載所要期間



Copyright © The Robotics Society of Japan, All Rights Reserved

読んでおもしろい学会誌に向けて(1)

- 論文投稿数の低下
  - 若い研究者の投稿数低下→英語で論文投稿→AR
  - 採択率の低下→モチベーションの低下
- 投稿数の増大
  - 企業技術者の論文投稿を増大
  - 新しい査読制度導入←2014年より実施
  - 受理範囲を拡大←　　〃
  - 企業向け論文特集号
    - ローコスト化関節機構
    - 軽量化アーム機構
    - 使い易いティーチング、etc.
  - 実用化技術論文賞の導入

読んでおもしろい学会誌に向けて(2)

- 一般記事・特集の減少

  ←企業技術者・研究者への魅力の低下
  - 今、現場に使える技術解説を特集する
  - 特許のサーベイ記事→サーベイ論文として認める？
    - 昔からのアーム・ハンド機構をコストパフォーマンス順に一覧化
    - インクリメンタル型エンコーダ回路や機構でアブソリュート化
    - 弁理士の技術調査記事（論文化？）
  - 企業・研究室訪問記事→開始
  - 熟練技術者・有名研究者の失敗談・解決経験談
  - 物故熟練技術者・有名研究者の生前談義
  - 最新注目技術・理論について座談会
  - 実験データだけを多数出して、次回で皆が考察する
  - ロボット研究室の卒業生が学んだ理論・技術が企業での活用経験
  - プロの編集者の雇用・委託→科学・技術誌の元編集長？
  - 過去の解説記事の再採録（改定可）
    - 中村仁彦先生（東大）の機構学セミナー(？)

      →ノンホロノミックな系ではリヤプノフ関数がない